支え合いマップとご近所福祉

住民への説明用資料

この資料では、以下のことを簡単に説明してあります。①なぜ支え合いマップ作りが必要なのか。②なぜご近所福祉が必要なのか。③マップとご近所福祉の関係は？

住民とマップを作るとき、事前に上記のことを説明したい場合等に利用できます。住民への配布用ではなく、主催者の説明用ですので、この資料を住民には配布せず、下記の内容をホワイトボードに図示しながら説明します。時間は１５分～３０分を見込んでいます。ご質問などありましたら、本研究所へご連絡ください。

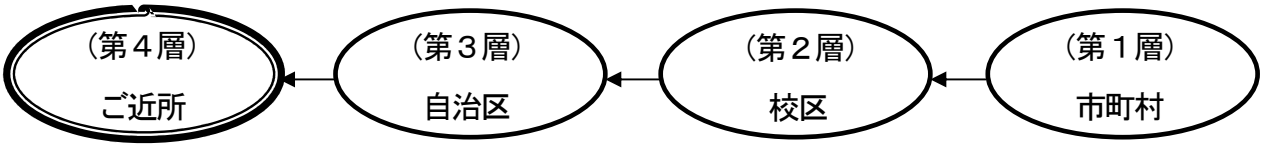
⑴地域には第４層（ご近所）もあった

❶地域は３つの圏域（層）からできている、と言われている。

❷第１層が市町村（数万世帯）、第２層が校区（数千世帯）、第３層が自治区（数百世帯）。

❸しかしそのあとに第４層もあることがわかった。それは「ご近所」で、およそ５０世帯。

❹昔、社会の基本単位は５０世帯だった。国郡里制の「里」は５０世帯。



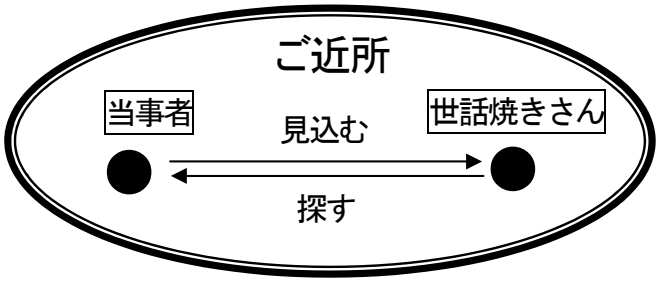
⑵当事者（要援護者）はご近所にいる

❶当事者（要援護者）はご近所にいて、そこからニーズを発信している。

❷その心身の状態から、ご近所から出ることは困難で、ご近所の人の支援を受けながら自立生活をしている。

❸住民によるサービスは大抵、第３層で行われているが、当事者はそこまでは行けない。

❹だから、まずもってご近所の福祉を充実させてほしいと願っている。



⑶ご近所には世話焼きさんがいる

❶ご近所には福祉の人材・世話焼きさんがいる。

❷第３層は広すぎて動きにくい。ご近所なら当事者がよく見える。ご近所は人材の宝庫。

❸当事者も、世話焼きさんを見込む。両者は相思相愛。

⑷助け合いは唯一ご近所で行われている

❶ご近所（５０世帯）ならお互いの「顔が見える」。

❷だから住民は唯一ご近所で助け合っている。自治区以上での助け合いは無理。

❸住民の助け合いには独特の流儀がある。

❹当事者主導・１対１（まとめない）・双方向（お返し）・相性大切・天性主義（世話焼きさんが活躍）

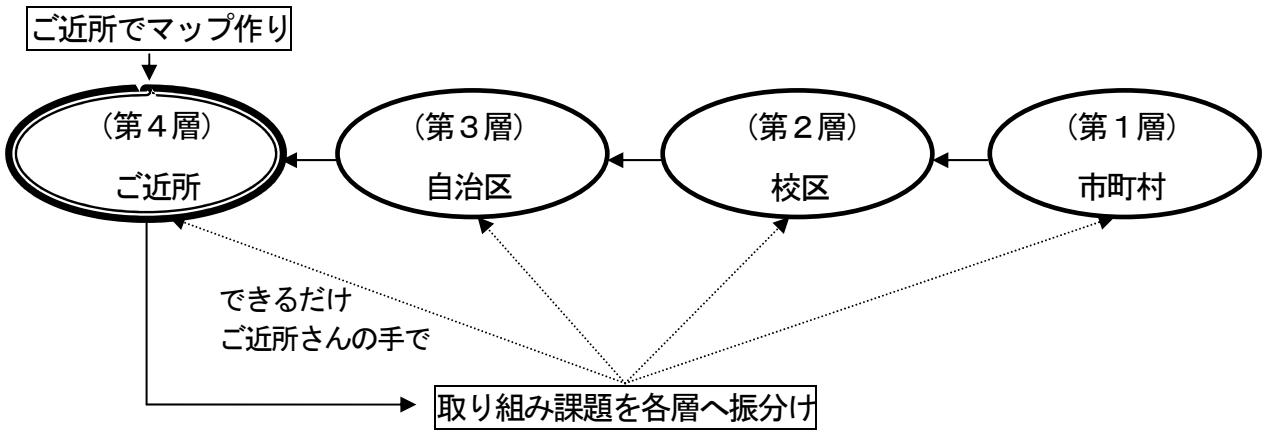
⑸支え合いマップを使って

❶ご近所での助け合いは周りからは見えない。

❷ご近所さんは見えないように助け合っている。当事者の自尊心を守るために水面下で動く。

❸支え合いマップを作れば、助け合いが見える。マップはご近所ごとに作る。

❹ご近所の住人、数名の情報を集約すると、助け合いの実態が見えてくる。

❺マップでよりよきご近所への取り組み課題を抽出し、それを各層に割り振る。

❻課題への取り組みはできるだけご近所さんの手で。民生委員等は後押し役に。